



12月の保健目標 「手洗い・うがいをしよう」



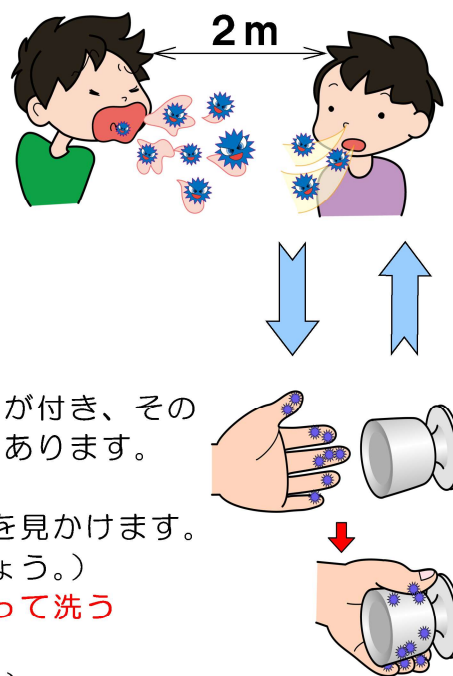
新型コロナウイルス感染症の感染拡大が深刻化しています。市内でも11月に入ってから、これまでにない勢いで増加しています。市内外の小学校でも新型コロナウイルス感染症による学年閉鎖や臨時休校の措置をとったところがありました。少し慣れてきたところで、改めて気を引き締めて予防対策を講じていくことが大切です。

ウイルスを運ぶ「飛沫」

インフルエンザや新型コロナウイルス感染症などの感染症は、感染者が飛ばす「飛沫」が感染の原因になっています。

くしゃみなどで口から飛ぶ「つば」の細かいしぶきのことを「飛沫」といいます。飛沫は目に見える大きいものから、 $5\mu\text{m}$ (0.05mm) くらいの目に見えない小さなものまであります。

くしゃみ・セキ・会話のそれぞれで、飛沫が飛び距離は違い、くしゃみの場合は、約2m飛びます。ウイルスに感染した人が飛ばす飛沫の中にはウイルスが多量に含まれており、気づかいうちに、他の人の鼻や口などに入ってしまうことがあり、「飛沫感染」を起こすことがあります。



飛沫から「接触感染」へ

感染者の飛沫が付いたものに触れて、手にウイルスが付き、その手で鼻や口、目などに触れて感染する「接触感染」もあります。

飛沫による
ウイルスの
感染を防ぐ
には・・・

★マスクの着用

(汚れたマスクをしている児童を見かけます。
毎日清潔なマスクをつけましょう。)

★手のすみずみまで石けんを使って洗う

★こまめに換気をする

(空気中に残る飛沫を外に出す。)

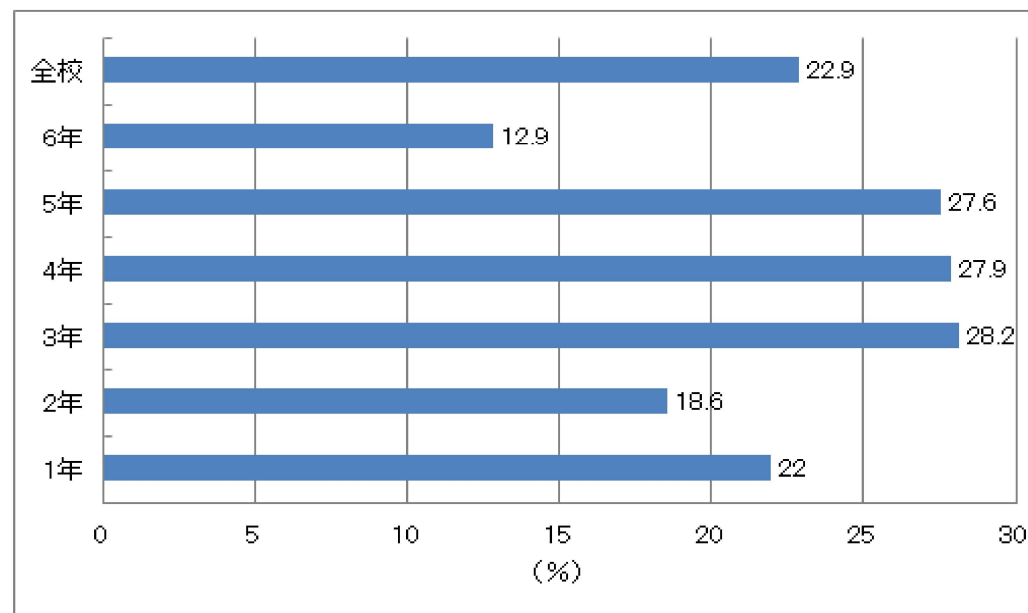
★他の人と1～2mの距離をとる

(飛沫の飛び距離は2mにも。)

少年写真新聞社「小学保健
ニュース」より一部抜粋

定期健康診断が終了しました

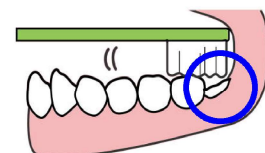
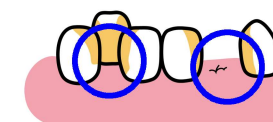
法令に基づき、6月末までに実施していた定期健康診断ですが、今年度は新型コロナウイルス感染症の関係で、予防対策を講じながら、2学期に実施しました。健康診断の結果はすでにお知らせしました。



上のグラフは、11月に実施した歯科健診の結果、むし歯や歯周病、要注意乳歯などで受診が必要な人の割合です。

この他にも歯並びや咬み合わせで歯科医への相談が必要な人もいます。

おもにむし歯や歯周病についてみると、3年生から5年生にかけて多く、混合歯列期の歯みがきの難しさがあるようです。抜けたばかりのところは痛くてみが



けない、生え始めの歯に歯ブラシが届いていない、というようなケースが考えられます。特に生え始めの永久歯は表面が軟らかい、奥歯は溝が深くむし歯になりやすいので、鏡を見ながら歯ブラシが届いているか確かめながら、みがくといいですね。

学校歯科医の先生によると、個人差が大きく、こまめに歯科医院で健診している人もいれば、ほとんどみがけていなくて歯垢がべったり、むし歯が何本もある、という人もいるとのこと。

歯の生え替わりの確認を含め、歯みがきのチェックを保護者の方にしていただきたいと思います。小学生のうちは、スキンシップを兼ねて、できる範囲で仕上げみがきをお願いします。

受診が必要な人はできるだけ早く、歯医者さんで診ていただきますよう。